



我が家のマンゴー

# 「子どもたちの家」建設、 来年こそ実現したいです！

## 2009年 日本キャンペーンご協力をお願い

来年（2009年）5月半ば～7月半ばまでの約2ヶ月間、日本でのキャンペーンを予定しています。「子どもたちの家」建設のご協力お願いのキャンペーンです。長年の夢であったこの建設を、来年こそ実現したいと心より願っています。

難渋していた土地使用目的変更、また3区画を合同し1区画としてモヨ名での登記が承認され、去る2008年11月27日付けで県からの建築許可が下りました。この日から1年以内に着工が条件付けられています。現在3社に依頼し、見積もりを出して貰っていますが、今年中には全社の見積もりが出る予定です。予算額がでたところで、まず日本大使館を通じて「草の根無償」資金の申請をと考えています。当モヨとして今まで公的資金を申請したことは無いのですが、今回はどうしても来年中には着工したいとの思いから、公的資金の申請を試みたいと思っています。

現在までに「子どもたちの家建設資金の一部として」皆様からお預かりしているご寄付を自己資金とし、足りない分を申請する予定です。これが受理されれば次回のキャンペーンは「子どもたちの家」運営と維持のためのキャンペーンに切り替えたいと思います。次号「モヨ



建設予定地草刈り

通信14号」で経過をご報告します。

さて次回キャンペーンは先日完成した小林監督作品「チョコラ！」のDVDをお借りして、上映と講演という形にしたいと思っていましたが、小林監督率いる？映画制作チームとの協議の結果、急きょ予定を変更、制作チームの動きに全面的に連動させて頂くことになりました。

現在このチームでは5月中旬～下旬にかけての東京での劇場公開を皮切りに各地の劇場、ミニ・シアターでも上映したいと準備を進められています。その公開先でご挨拶なり、ご支援のお願いを出来る場合はさせて頂きたいと思っています。各地の支援者の方々には、劇場公開とキャンペーンとを最大限連動させて、大きな輪を広げていく動きをともに出来たら嬉しいです。また劇場公開の無い地域では、DVDをお借りして日本滞在中に合間を見ながら、お伺い出来ればとも思っています。

この「チョコラ！」は、映画誌「キネマ旬報」でも大きく取り上げられ、高い評価を受けています。また試写を見られた幾つかの新聞社も大きく取り上げてくれています。

私にとってはこの映画は、とても「身近な」「子どもたちの今」です。「共に歩む子どもたちの今」です。多分「永遠に色あせることの無い子どもたちの今」にもなるような気がします。

この子どもたちの未来の家、「子どもたちの家」建設にご協力をお願い致します。日本での劇場公開の日程が決まり次第、各地区で中心になってくださっている方々を通じて皆様にご報告、その他の日程も含めご相談させて頂きたいと思います。今暫らくお待ちください。

(松下)

## 今年も全員完走、 ナイロビマラソン 10月26日(日)

### ご報告と寄付のお願い

昨年に引き続き今年もナイロビマラソンに「モヨ・チーム」としてチャリティ・ランを企画・参加しました。今年の開催日は10月26日(日)、前「12号」でお伝えしたようにモヨ・チーム総勢15名、昨年と同じくモヨのロゴと名前入りの赤のTシャツを着用しての参加です。

前夜から合宿体制?でランナー全員キボコ泊まり、当日は雇ったマタツで朝5時出発、出発地点のナイロビ・ニャヨ競技場に向かいます。私たちが着いた時には、既に多くの人々が手続き中。私たちが10キロ(9名)と21キロ・ハーフ(6名)に分かれて手続きをし、それぞれの出発地点に向かいます。

当日は出発時点では時々小雨のちらつく曇り空、何と言っても人気の10キロは凄いランナーの数、これで将棋倒しになったら…と恐怖を感じるほどです。実際に10キロコースではスタート時に、後から押された人が転



モヨランナーたち

倒、20名の方が怪我をするというアクシデントがありました。21キロコースは順調なスタートだったようです。ただどち

らのコースも去年の単純なコースと違ってナイロビの中心街を走るジグザグコースで、何処が5キロ地点なのか、もう何キロ走ったのかも判らない。お互いの姿も確認しにくく、その分長く感じるコースでした。

それでも無事全員完走!中でも21キロ初挑戦のケヴィンの活躍には目を見張りました。「堂々の一時間37分」でのゴール!マラソンのトレーニングを受けたことがあり身長も1メートル75はありそうなムイガイに遅れることたった3分、スタッフを引き離してのゴール!首にかけたメダル(5時間以内に完走すると貰える)がひと際輝いて見えます。

さて以下はお願いです。12号に掲載しましたように、「チャリティ・ラン」を通じてのご寄付にご協力ください。

●振込先は日本:口座名「モヨ・チルドレン・センターを支える会」代表者:高塚政生※郵便振替口座番号:01660-1-73996(ナイロビマラソン・走者へ或は走者名をお書きください)

●ケニアの場合:松下にご連絡ください。

現在ナイロビ在住のTさんご夫妻から、日本のMさんご夫妻からご寄付を頂いています。本当にありがとうございます。「子どもたちの家」建設資金の一部として大切に使用させていただきます。また日本のM・Hさんからは「来年一緒に走りたい」とのお申し出を頂いています。皆様のご参加も心よりお待ちしております。(松下)

## ケニアでの3年間とMOYOと松下さんと

大石祐佳里

この4月に帰国して6ヵ月たった10月下旬、そういえばナイロビマラソンがある頃だなと思っていたら、MOYO通信12号がケニアから届いた。すぐに封を開け読んだ。日々の慌ただしさと薄れかけていたナイロビでの思い出が蘇ってきた。小林監督の「チョコラ!」は陣中見舞いと称して、おでんを持ってお邪魔したので完成報告はうれしかった。ありのままの様子を撮影する為に、普通に彼らに接する監督や吉田さんの様子をはっきり覚えている。ふれあい祭りで当たった日本往復航空チケットを松下さんにプレゼントした時の喜んでくれた顔も忘れられない。(今思うと我ながら太っ腹!)今年の1月は新学期前の買い出しに同行しようと思っていたのに、選挙騒動で実現出来なかったのは心残りだ。支援した子供達が小学校は通いきれないように費用を松下さんに託した。何人の子供が卒業まで通いられるかとは思いますが、松下さんを通じて君達を支えたいと思っている人が沢山いることを理解してくれるといいなと

思う。選挙騒動で自身も物流面や治安で不便な生活になっているであろうに、スタジアムに避難民が来ているのでその支援や子供の保護をしようと思っていると松下さんから聞いたときは、あの小さな体のどこにそんなパワーがあるのかと改めて思った。自立の役に立つ技術を持たず教えることができない自分がMOYO、松下さんに出来るのは寄付行為しかなく、正直それで本当に支援していることになるのか、偽善者でしかないのではないかと思ったこともあるが、偽善だとしても少しでも役に立つことがあるなら、それでいいのではないかと思えるようになったのは、松下さんの活動を見て、話をする機会があったからだろう。次にケニアに行くのはあの広い敷地に新しい「新しい家」が出来たときにしようかと思っている。MOYO、松下さんがケニアにいる限り、私とケニアは切れることなく続くのだ。楽しみを与えてくれた松下さんに感謝!そしてこれからもよろしくです。



## 新しい家の子どもたち

### パティのこと

フレデリック・パティ（15才）が更生院へ入所したのは2008年9月5日、つい先日のことです。今年の2月以来発覚した数々の盗み、ナイフ、山刀等を使つての暴力沙汰等の繰り返し、最後には警察の留置場へ。今思い出しても子どもたち、スタッフを巻き込み本当に凄まじい日々でした。日頃は正義感が強くて、小さい子どもたちには親切で、寡黙だけど存在感があつて…。その彼がどうして?! 眠れない夜が続き、いろんな方にも相談しました。カウンセリングも受けました。でもどうにもなりません。彼の心が理解出来ないまま、更生院入所になりました。

ところが昨夜（11月30日夜）、更生院を抜け出し、「新しい家」に帰って来てしまいました。どうしても更生院に帰るのは厭だと言います。でも脱走したままでは彼の行き場所はありません。更生院からリハビリ終了の証書を貰わない限り、他の学校の編入は認められません。一度更生院に帰りそこから話を始めようという私やスタッフの説得にも耳を傾けようとしません。「ここに置いて欲しい、置いてくれる筈だ」という思いが痛いように伝わってきます。置いてくれないのなら自分で生活すると言い張ります。

「それがあなたの出した結論なら試してみなさい。学校にはありのままを伝えておくから。でも自分で出した結論だということだけは忘れないで。もし気が変わったらいつでも相談に乗るから。病気の時は遠慮なく来るんだよ。」というのが私の答えです。15才の少年に厳しすぎる処置かも知れませんが、でも今は彼をこのまま受け入れるわけにはいきません。彼に考えて貰いたいのです。選択をするということがどういうことなのかを…。彼も私も試されています。

### ギソング、ウガンダへ

ジョン・ジョロゲ（通称ギソング・18才）、「新しい家」の最年長の彼と元スタッフのモーゼスを同行しウガンダへ行ったのは8月23日です。彼らをモヨの役員であるアロイジヤスの運営している職業訓練校（HDCC）へ編入させる為です。

経緯を簡単にご報告します。ギソングはキボコ小学校6年生ですが、他の子どもたちより年長にもかかわらず成績はほぼ最下位で留年するよう言われたこともあります。英語がほとんど理解出来ず、当然試験問題も理解出来ない。一方暗算等数字に関してはめっぽう強い！性格はちょっとコミカルでとても明るく、サッカー大好き青年？です。そんな彼がわからない授業に卒業まで2年半も時間を取られるなんて勿体ないという気がしていました。そこで、このまま



中央：ギソング

2年半かけてキボコ小学校を卒業するか、それともHDCCで技術を習得するか考えてみるように勧めました。ギソングは兄弟姉妹とも相談の上HDCCに入ることを選びました。自動車修理の道へ進みたいとの希望です。

私たちがHDCCを薦めた理由は、まず第一にアロイジヤスが信頼出来るということに加えてモヨはHDCC設立当初から運営に関わり、内容を把握しています。第二にウガンダは、東アフリカ諸国の協定によって行き来が簡単で言葉の問題も少ない。第三にここケニアでは少なくとも小学校8年卒業程度の学力が無いと職業訓練校の授業についていけません。その点HDCCは技術中心のコースも持っています。

さて昨夜（11月30日）久し振りにウガンダへ電話を入れました。「元気でやってるから心配しないで！勉強も面白い！」ととても澁刺とした声にほっとしました。

### 新入り3兄弟

エマニュエル・エモル（11才）、ザキアス・イムル（10才）リチャード・ナシケ（5才）の3兄弟が「新しい家」に正式に入所したのは今年10月17日、子ども省からの依頼でした。エマニュエルはキボコ小学校4年生、ザキアスは3年生、末っ子のリチャードは幼稚園に編入しました。彼たちは2000年に父親を、2003年に母親を亡くし、それ以来あるNGOに引き取られていたのですが、そこで問題が起き、子ども省からモヨへの依頼になりました。

長男のエマニュエルはとてもおしゃべりで、かつ彼の英語力と人の話を理解する能力は驚くほど優れています。弟たちの面倒見もとても良い。歩いていてもいつも弟たちに気を配っています。次男のザキアスは無口ですが、とても気が強い！驚いたことに3学期の成績はダントツのトップで500点満天で442点という素晴らしい高得点！同じクラスのブグワが自信を失くすほどです。末っ子のリチャードは誰の膝の上にも乗っかり、好き勝手にしゃべっています。まだ一人で寝るのが嫌でスタッフのピウスと一緒に寝ます。時々のおねしょはだいぶ少なくなったようです。テレビを見に来ても誰かの膝ですぐ眠ってしまいます。まだまだ甘ったれの彼ですが、皆の人気者、彼の存在に気分も和らげられています。

ただこの3兄弟、体格が同世代のその他の子どもたちに較べると小さく、身体を動かすことが余り得意ではないのが気になります。「良く遊び、良く食べて、強い身体を作ろうね」と言う「うん！」と力強い返事です。何しろ子どもは丈夫が一番、元気に育てて欲しいものです。（松下）



ストリートの子どもたちへの支援

アントニー訪問

アントニー・ギタウ（16才）をカカメガ更生院へ訪問したのは11月22日。「新しい家」のケヴィンと一緒にです。アントニーの母親と行く予定だったのですが、急に行けなくなり、ケヴィンを同行しました。20日にティカを出、ナイロビで一泊、11時間のバスの旅を経てカカメガに着いたのが翌21日午後6時過ぎ、その夜はタウン泊まり、翌22日更生院訪問、やっとアントニーに会えました。

私たちが待つ部屋へ照れ臭そうに入って来た彼はしばらく会わない内に背丈もグッと伸び、私より頭一つ背が高い。話す時は見上げます。小柄なケヴィンと並ぶとほとんど大人と子どもです。

元々無口な彼ですが「元気だった？」と聞くと「ン」と一言。「何か問題は無かった？」と聞くと「何も」とこ



中央：アントニー

れまた一言。そういう彼に、お母さんも来たかったけどお祖母さんが病気で来られなかったこと、お母さんがとても心配していたこと等をケヴィンの通訳で伝えました。「お母さんはあなたをとても愛してるよ。」と伝えた時には、微かな微笑みが浮かびました。

外出許可を得て、買い物、昼食を終え、更生院に帰ったのが午後2時過ぎ。彼の親しくしている友人たちと一緒に写真を撮り、来年の訪問を約束して院を後にしました。その日の夜行バスでナイロビに向かうという強行スケジュールでしたが、彼の元気な姿をみてホッとしています。来年には出所出来るかも知れない彼の今後を考え始めています。  
(松下)

宗教

ケニア・ア・ラ・カルト<sup>⑬</sup>

ケニア政府の統計（調査年不明）によると、ケニア人の各宗教の割合は次のようなる

- プロテスタント 45% / カソリック 33%
- 土着宗教 10% / ムスリム 10%
- その他 2%

この数字を見るとやはり圧倒多数がキリスト教徒。ケニア国中のあちこちに教会がある。粗末なものから目を見張るような立派なものまで。ナイロビの日曜日ともなれば人気のある教会の周辺は大渋滞。地方でも1つの村には少なくとも1つの教会があるように思う。God bless you! のスワヒリ語版 Mung akubaliki という言葉もよく言われるし、助けてくれた人に対してよりも、神に感謝する気持ちの方が強いようだ。以前スーパーのレジで気分が悪くなった時、店員は親切に買い物袋を持って車まで同行してくれた。その後、車の横に立ち、がなりたてるように神に私の回復を祈り始めてくれたのには、感謝よりも、悪いけれど閉口してしまった。

高橋

モヨ・チルドレン・センターの歩み

- 1997年11月 / ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
- 1999年9月 / ケニア政府より国際 NGO として「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。
- 2000年10月 / ティカにて、本格的に活動開始。
- 2001年5月 / 「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。
- 2004年4月 / 「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸甚です。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000 円	20,000 円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000 円	3,000 円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

■経過報告（2008年12月20日現在）

正会員：日本103名・ケニア1名・イギリス1名 計105名  
 賛助会員：日本83名・ケニア0名 計83名  
 特別会員：日本39名・ケニア2名 計41名  
 法人会員：5社・グループ4  
 総会員数：個人229名・法人5社・グループ4

■「支える会」よりお願い

郵便振替用紙を同封させて頂きました。通信欄に、会員番号、送金の趣旨（〇〇年会費・無指定寄付・〇〇指定寄付）等をご記入ください。皆様のご協力を心よりお願い致します。

■「支える会」会費 / 寄付受付先

口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会  
 代表者：高塚政生※郵便振替口座番号：01660-1-73996

■お知らせ

ケニアがリアルタイムで伝わる松下照美のブログ更新中です。HP からアクセスしてください。http://moyo.jp/

編集後記

◎本年中は変らぬご支援をありがとうございました。来年もどうかよろしく願い致します。皆様にとっても良いお年でありますように！（テル）  
 ◎今年はよく旅行に行きました。楽しい思い出が増えました。手持ち現金は減りました。（優香）  
 ◎最近、下校の児童の見守り隊をやっています。子どもたちは元気のかたまりですね。皆様、良いお年を（英）

モヨ・チルドレン・センター ●ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006  
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL/FAX：254(ケニアの国際番号)-020-2121356 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke  
 モヨ・チルドレン・センターを支える会 ●〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1 高塚政生方  
 TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632 E-MAIL：tmasao@d1.dion.ne.jp

■これまでのモヨ・チルドレン・センター日本支部は「モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部」になりました。連絡先はこれまで通り 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1916 青木康子：TEL/FAX：044-433-3447